

IV-54

障害者のレクリエーションに関する意識調査について

～ふれあいランド岩手を対象にして～

岩手大学 正 員 安藤 昭
 正 員 佐々木 栄洋
 正 員 赤谷 隆一
 学生員 ○新田 真也

1. はじめに

近年、日本でも「生活福祉空間づくり大綱」、「ハートビル法」（建設省）等の障害者・高齢者を考慮に入れた計画が各省庁で策定されている。これにともない、地方自治体においては、「福祉のまちづくり」に関する条例等が 47 都道府県全てで策定され、それと同時に施設マニュアルも示されている。これによって高齢者・障害者の外出する機会も増加し、余暇活動に対する欲求も多様化すると考えられる。

2. 研究の目的

岩手県においても平成 7 年 7 月に「ひとにやさしいまちづくり」条例で施設マニュアルが示され、公共施設、道路、公園において順次整備が行なわれており、障害者・高齢者が健常者と同様にレクリエーション活動を楽しむ機会が増加すると考えられる。そこで本研究では現在の障害者・高齢者のレクリエーション活動の実態と今後のレクリエーション活動の意向を調査し、また、障害者・高齢者の利用に配慮したレクリエーション施設である「ふれあいランド岩手」にレクリエーション環境指標を用いて評価し課題を探索することを目的とする。

3. ふれあいランド岩手の概要

①設置目的

障害者・高齢者を含む一般県民が、スポーツ・文化活動や相互交流を行なうことを通じて、誰もが健やかに生活できる地域社会の実現を目指している。

②設置運営主体

設置主体 岩手県

運営主体 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会

③所在地 岩手県盛岡市三本柳 8 地割 1 番 3



写真
ふれあいランド
岩手全景

表 1 ふれあいランド岩手利用者登録数（人）

区分	H6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	累計	構成比(%)
障害者	224	465	235	201	224	1,349	2.3
高齢者	370	564	266	419	417	2,036	3.5
学生等	3,092	9,209	4,804	2,989	2,686	22,780	39.4
一般	2,822	12,364	6,621	5,208	4,587	31,602	54.7
合計	6,508	22,602	11,926	8,817	7,914	57,767	

（ふれあいランド岩手 「平成10年度 年報」より）

④施設内容

文化施設（ふれあいホール、会議室、研修室、教養室、創作室、陶芸室、音楽室等）

スポーツ施設（プール、体育館、卓球室、トレーニングジムテニスコート、ゲートボール場、陸上競技場、アーチェリー場）

⑤利用統計 利用登録者数を表 1 に示す

4. 調査結果

(1) 調査の概要

本調査は冬期間である 1 月 11 日（木）～18 日（木）に「ふれあいランド岩手」を利用した障害者・高齢者を対象に行なった。なおアンケートの配布数は障害者・高齢者合わせて 198 票で有効回答数は 135 票である。有効回答率 68.1%であった。

(2) 調査内容

障害者・高齢者に図 1 に示すレクリエーション環境指標を用いて、ふれあいランド岩手の満足度を「不満」、「やや不満」、「どちらともいえない」、「やや満足」、「満足」の 5 段階で評価させ、平均点と標準偏差を折れ線グラフで表したものである。図 2 に障害者の満足度の評価結果、図 3 に高齢者の満足度の評価結果を示す。

固有性—人情味、にぎわい、建物のデザイン、プライバシーの保護、催し物（祭、イベント）、健常者・障害者・高齢者との交流
 快適性—利用における気安さ、利用の楽しさ、活動の選択性の多さ、周辺の自然の多さ、周辺の眺めの良さ、各施設利用のしやすさ、駐車場の広さ
 保健性—トイレの清潔さ、正面玄関の清潔さ、休憩室の設置場所、通路の通行しやすさ、看護婦等がいる、駐車場の水はけの良さ
 安全性—避難経路の確保、緊急時の情報案内、屋内施設のすべりやすさ、屋外の路面のすべりにくさ危険を知らせる案内板の設置、駐車場の積雪・凍結防止、駐車場における交通事故の安全性、夜間利用における安全性
 利便性—通路の広さ、ふれあいランドの認知しやすさ公共交通機関の便利度、正面玄関と駐車場の近さ、屋内の案内板の充実、利用時間について、利用料金について、各施設への行きやすさ。

図 1 ふれあいランド岩手におけるレクリエーション環境の評価項目 1)

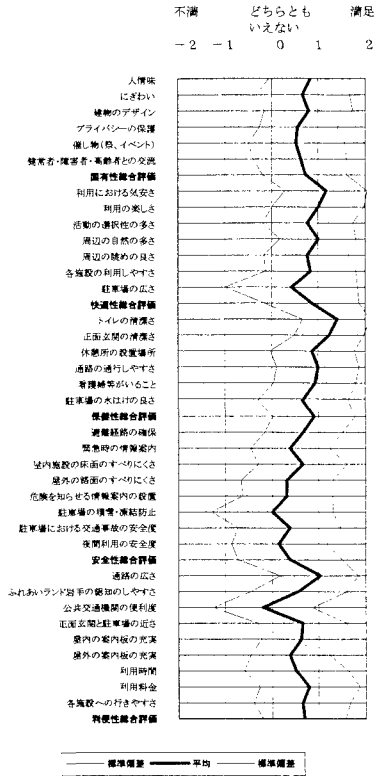


図2 障害者における満足度の評価

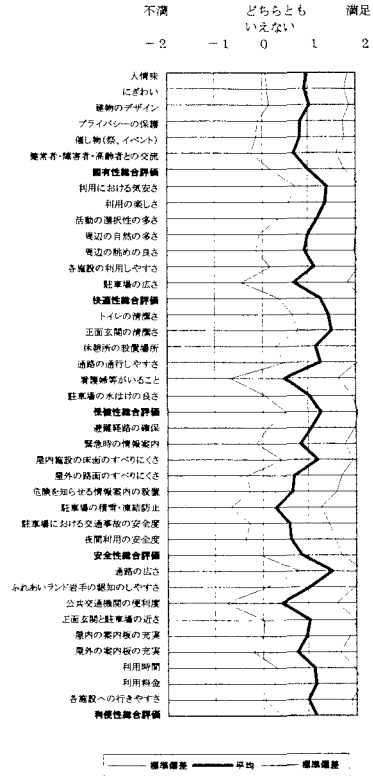


図3 高齢者における満足度の評価

5. 分析結果及び考察

(1) 障害者と高齢者の満足度の全体的な比較

障害者・高齢者両者の評価とも共通しているところは、全般的にどの評価項目においても評価が高い傾向を示していることであり、障害者と高齢者の比較では障害者が低く評価していることである。この結果は各施設（体育館、プール、卓球場、陸上競技場、ゲートボール場、テニスコート、アーチェリー場、多目的ホール、創作室、陶芸室、調理実習室）の総合評価が卓球場、陸上競技場以外で高齢者の平均値よりも低くなっているためである。

(2) 総合評価の比較

障害者の総合評価で一番低いのは「安全性」、次いで「利便性」、「固有性」、「快適性」、「保健性」の順で、高齢者の総合評価で一番低いのは、「安全性」、次いで「固有性」、「利便性」、「固有性」、「安全性」の順になっている。この結果から「固有性」と「利便性」の順番が違いうこと、「安全性」の評価が共通して低いことがわかる。

各施設の総合評価の満足度は障害者についてはアーチェリー場が低く、高齢者では卓球場の評価がそれぞれ低くなっている。

(3) 評価項目別の比較

障害者と障害者による評価が低い項目は両者ともに「駐車場の積雪・凍結防止」、「駐車場の広さ」、「公共

交通機関の充実」であり、「駐車場の積雪・凍結防止」は調査期間が冬季であったことも考えられるが、積雪・凍結時の障害者・高齢者のレクリエーション施設の利用は困難であり、転倒等を防ぐためにも早急な対策が必要である。また「公共交通機関の充実」と「駐車場の広さ」については、ふれあいランド岩手が盛岡市の郊外にあり、鉄道やバスの利用が不便であること、障害者・高齢者を考慮した交通機関が整備されていないことがあげられる。よって自家用車の利用が増加し駐車場の広さについても問題が生じていると考えられる。各施設の評価項目別の比較では「卓球室の広さ」、「陶芸室の広さ」、「テニスコートからの更衣室への近さ」が共通して低く評価されている。これらの理由は施設が狭いために快適に活動できないことと、屋外施設における利便性を確保するためと考えられる。

以上のことよりふれあいランド岩手の課題として

- ① 駐車場等の融雪施設の整備
- ② 卓球場、陶芸室の拡張
- ③ テニスコート付近への更衣室の設置
- ④ 障害者・高齢者用の十分な駐車スペースの確保
- ⑤ ふれあいランド岩手への公共交通機関の充実と低床バス等の導入

の5点があげられる。

参考文献 1) 安藤 昭・大泉 剛・佐々木 栄洋・赤谷 隆一
「早池峰ダム周辺環境整備に関する
多元的評価主体の意識について」